

# 中期3か年計画（2019年度～2021年度）のフレームワーク

## 目標

1. 農業者の所得増大

2. 農業生産の拡大

3. 地域の活性化

4. 食の安心・安全

## 情勢認識と課題

### 1. 組織・経営に関する事項

- 「農協改革集中推進期間」の期限(2019年5月)
  - 中央会の連合会への組織変更(2019年9月)
  - 5年後検討条項問題(准組合員規制)について(2021年3月)
  - 信用事業運営方針のあり方(2019年5月)
- 本県JAグループの将来を見据えた「県域事業連携工程表」の策定・実践

### 2. 食に関する事項

- 国による国際水準GAP認証取得への推進強化と大手量販店におけるGAP取得義務化への移行
- HACCP導入義務化(2020年までに義務化)
- 全ての加工食品への原料原産地表示の義務化(移行期限:2022年3月)
- オーガニック農産物へのニーズの高まり
- 地理的表示保護制度(GI制度)取得の加速化
- 米消費の減少や中食・外食の増加など消費構造の変化

### 3. 生産基盤に関する事項

- 農業従事者の高齢化及び減少
- 農地について
  - 米政策の見直しによる水田利用の変化
  - 耕作放棄地の整理・活用
- 生産拡大について
  - 農地法改正による企業の農業参入要件の緩和
  - Aコープファーマーズコーナーや直売所併設型資材店舗など、多様な直売施設の増加

### 4. 農業経営に関する事項

- 生産コスト低減
  - 県域を越えた事業提携の進展
  - 新たな低コスト生産資材・高機能資材の普及
  - 生産性向上につながるドローンや農業ICTなど新技術の開発・普及
- 農家所得増大に向けた農畜産物の海外輸出の増加
- 海外の穀物相場・原油相場に左右される生産物及び生産資材価格

### 5. 地域に関する事項

- 人口減少・高齢化
  - 介護・福祉・買物弱者支援に対するニーズの高まり
  - 元気高齢者の活躍の場のひろがりや労働力としての期待
  - 過疎化の進行に伴う限界集落増加
- 地域活性化に向けた特色ある取り組み
  - 協同組合間・商工会など他団体との連携
  - JAグループ一体となった地域社会への貢献

### 6. 一般情勢

- AI・ICTを活用した超省力・高品質生産を実現する技術の研究開発等
- ドライバー不足に端を発する農畜産物の流通形態の変化
- 訪日外国人の増加による新たなインバウンド需要
- 環境問題や省エネルギー対応によるガソリン車から電気自動車への移行
- 技能実習生をはじめとする外国人就労者の増加
- キャッシュレス決済の普及拡大

## 基本方針

私たちは、農業協同組合の原点に立ち返り、組合員・JAと共に協同の力を最大限に発揮し、「魅力ある確かな産地」づくりと「農家組合員・地域住民の豊かな暮らし」を実現するため、**経済連グループの力を結集します。**

農家組合員の経済的・社会的地位の向上を目指し、これまで培ったJAグループ鹿児島県の経営資源（ひと・もの・カネ・情報・知識）を集中し事業の効率化とスケールメリットを活かし、農家組合員・消費者にとって魅力ある強固な生産基盤をつくり、これまで地域を支えてきた地域住民の豊かで安心できる生活を守るため、経済連グループの総合力を発揮します。

## 基本戦略

1. JAグループ鹿児島県の経営資源を結集することによる強固な生産基盤の確立

2. 地域に根ざしたJAグループ鹿児島県として、農家組合員・地域住民の暮らしを守る取り組み

3. 次代のJAグループ鹿児島県を担い鹿児島県の農業を支える人財の育成

4. なくてはならないJAグループ鹿児島県となるための自己改革の実現

## 重点戦略

1. 農業者の所得増大を目指し、魅力ある鹿児島県の農業を継続して創出していくための生産基盤対策

- JAと一体となった事業方式の強化や生産性の高い産地づくりを推進します。
- 産地の実態に合わせたJA域を越えた施設の共同利用体制を構築します。
- 輸送環境の変化に対応する安定供給に向けた物流体制を整備します。

2. コスト削減、反収拡大、品質向上につながる生産資材の開発・供給および事業(サービス)の構築

- 担い手のニーズに対応した低コスト生産資材の開発・普及に取り組みます。
- 農家経営の効率化に向けた生産技術の確立・普及に取り組みます。
- 配送体制の見直し等による物流コストの低減と事業の効率化をはかります。
- エネルギー事業におけるSS等の施設整備及び県域機能の拡充に取り組みます。

3. マーケットインに 대응する生産・販売・出荷体制と鹿児島県産ブランドの確立

- 実需者と連携した地域ブランドの展開・発信に取り組みます。
- 実需者のニーズ変化を捉えた戦略的な契約取引を推進します。
- 輸出やインバウンド需要を活用した販路開拓に取り組みます。
- 経済連グループにおける食の安心・安全への取り組みを強化します。

4. AIやICTを活用したイノベーションおよび省力化、人手不足等に対応する生産管理体制の構築

- ICTの活用による生産性向上に向けた技術の普及を推進します。
- 農作業の省力化や人手不足に対応したスマート農業を推進します。

5. 農業協同組合の原点に立ち返り、農業者に寄り添い、地域社会に根ざしたJAグループ鹿児島県の機能発揮

- 組合員・地域住民が安心して生活できる地域の暮らし支援、ライフラインの確保に取り組みます。
- 組合員の住まいの環境整備に関する提案力の強化に取り組みます。

6. 次代のJAグループ鹿児島県を担い、農家組合員に寄与し、地域の活性化を実現

- JAグループ鹿児島県を支える人材育成に取り組みます。

7. 農業者・消費者の声に耳を傾け、効率的な事業・有効的な施策の提案及び実現

- JAグループ鹿児島県が目指す組織の実現に向けた推進機能の強化に取り組みます。